

プロフィール

2009年ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。スイスのジュネーヴ音楽院卒業、ドイツのクロンベルク・アカデミー修了。チェロを倉田澄子、フランス・ヘルメルソンの各氏に、室内楽を東京クワルテット、原田禎夫、原田幸一郎、加藤知子、今井信子、リチャード・ヤング、ガボール・タカーチ=ナジの各氏に師事するマスメディアでも「小澤征爾さんと音楽で語った日〜チェリスト・宮田大・25歳〜」「題名のない音楽会」「徹子の部屋」「クラシックTV」「あさイチ」などへ出演。また2025年NHK大河ドラマ『べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺』の「べらぼう紀行I」を担当。録音活動も活発で、トーマス・ダウスゴー指揮、BBCスコティッシュ交響楽団との共演による「エルガー:チェロ協奏曲」をリリース。欧米盤が、欧州のクラシック界における権威のある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」において、コンチェルト部門(チェロ)で受賞するなど、海外からの評価も高まっている。最新アルバムは、ギタリスト大萩康司とのデュオ第二弾となる『atelier』を2024年12月にリリース。近年は国際コンクールでの審査員や、2019年からロームミュージックセミナーの講師を務めるなど、若手の育成にも力を入れている。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1698年製A.ストラディヴァリウス“Cholmondeley”である。

チェロ奏者 宮田 大

Dai Miyata LEO

プロフィール

1998年横浜生まれ。9歳より箏を始める。音楽教師であり箏曲家のカーティス・パターソン氏の指導を受け、のちに箏曲家沢井一恵氏に師事。14歳で全国小中学生箏曲コンクールにてグランプリ受賞。16歳でくまもと全国邦楽コンクール史上最年少最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。一躍脚光を浴び、2017年19歳でメジャーデビュー。同年、東京藝術大学に入学。MBS「情熱大陸」、テレビ朝日「題名のない音楽会」「徹子の部屋」、NHKワールドプレミア「世界へ届け日本の伝統芸能」、NHK Eテレ「にっぽんの芸能」、など多くのメディアに出演。これまでにセバスティアン・ヴァイグレ、井上道義、秋山和慶、沖澤のどかをはじめとした指揮者や、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演しソリストを務める。2021年、藤倉大委嘱新作の箏協奏曲を鈴木優人指揮・読売日本交響楽団との共演で世界初演し、2024年9月にはスロヴァキア及びウィーンにおいてそれぞれ招聘され、同曲で好演を果たしている。2022年にはSUMMER SONICに異例の出演を果たし、同年、箏奏者として初めてブルーノート東京でライブを開催したことで話題を集めた。出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。伝統を受け継ぎながら、箏の新たな魅力を追求する若き実力者として注目と期待が寄せられている。

箏奏者 LEO

